

地球にやさしい 空飛ぶチカラ

今日もJALグループの翼をお選びいただき、ありがとうございます。

真つ青な空にしなやかに伸びる翼。雲の上

では梅雨の時期ということも忘れてしまいますね。さて、翼の中に燃料が入っていることはご存じの方も多いかもしれませんが、その燃料が使い終わった天ぷら油から作られているとしたら……今日は生活に大変身近な空飛ぶチカラの話です。

今年4月、日本で初めて、国産「SAF^{サフ} (Sustainable Aviation Fuel)」の量産設備が大阪で稼働を開始しました。SAFとは、従来の化石燃料よりCO₂排出量を製造過程含めて約80%も減らすことができる、新しい航空燃料です。各国が開発に力を注いでおり、日本ではこの稼働が実用に向けた大きな一歩となりました。原料は、なんと「廃食油」です。その多くは食品工場やレストランから出るものですが、ご家庭から回収する仕組みも整えており、JALグループが推進しているプロジェクトだけでも、全国のスーパード50カ所に回収拠点が広がってきました。皆さまのお近くにもございましたら、ぜひお持ちいただけたら幸いです。とはいえ、目標とするSAFの供給量にはほど遠く、次に期待されているのが「木」です。関係企業の方々と取り組む「森林プロジェクト^{そら}」では、木材加工の際に出る木くずや、間伐材などを使ってSAFを生み出そうとしています。異業種タッグで臨むこのプロジェクトは、航空におけるCO₂排出量削減だけでなく、日本の森林保全や、林業を営む地域経済の活性化など、さまざまなサステナビリティを促進するものです。



イラスト／山本祐布子

SAFをはじめとした脱炭素の取り組みを通じて感じているのは、過去の慣習にとらわれず、産業の枠を超えた知識や技術でものごとの取り扱いを変えていくことで、地球規模の課題解決の糸口になるということです。そしてもうひとつ、こうした話を若い世代の方々とすると、ごく自然に社会課題への強い意識を持っていることにいつも驚かされます。次世代が豊かな未来を生きていくためにも、私たちが今、土台を作る最大限の努力をする必要性を強く感じています。今後も、志を同じくする皆さまとのパートナーシップの下、歩みを進めてまいります。次回のご搭乗も心よりお待ちしております。

※森林プロジェクト^{そら}については、本誌「JAL SDGs REPORT」もあわせてご覧ください。

たびとりどり

代表取締役社長 グループCEO

鳥取三津子



TOTTORI Mitsuko

とっとり みつこ／1964年、福岡県久留米市生まれ。1985年4月入社（客室乗務職）。2019年に客室安全推進部部長、2020年に執行役員 客室本部長、2022年に常務執行役員 客室本部長、2023年に専務執行役員 カスタマー・エクスペリエンス本部長に就任。同年6月に代表取締役専務執行役員、グループCCOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。